

近年の物価上昇の動き等

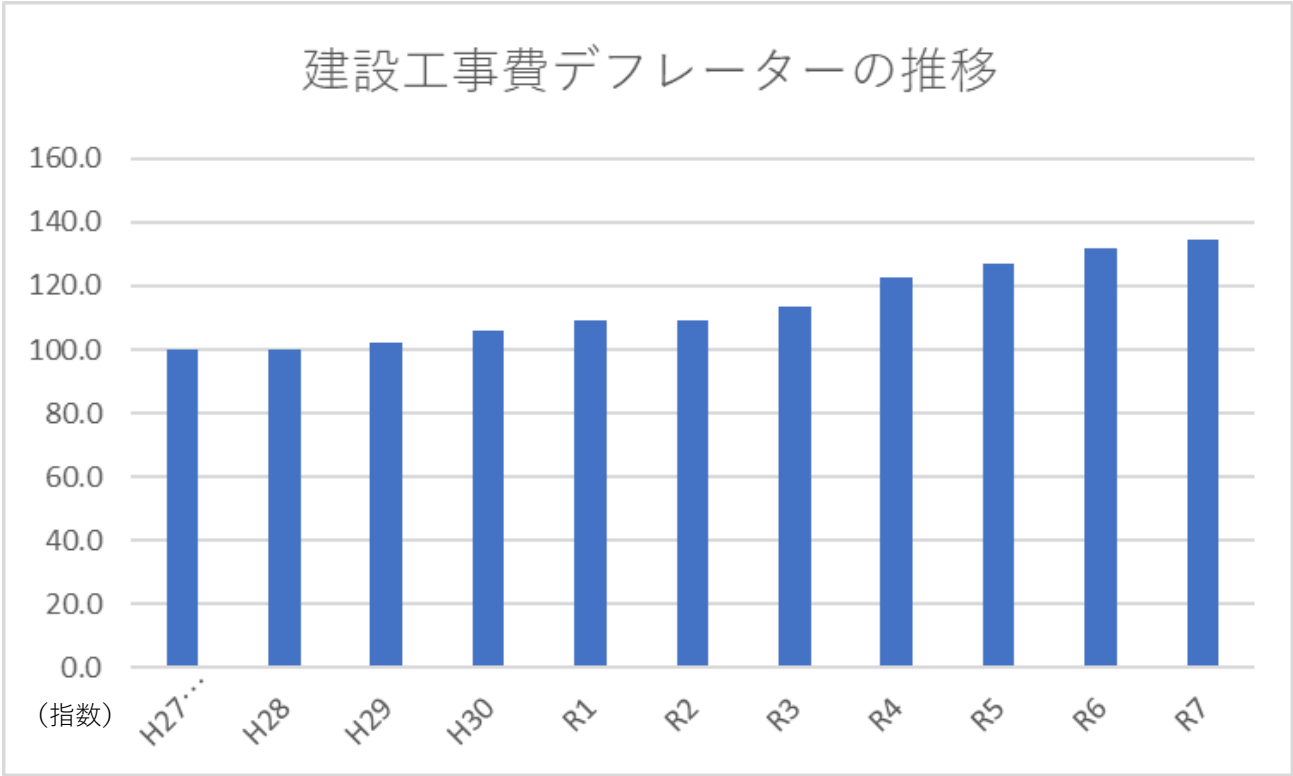
令和8年6月29日
京丹後市上下水道部



1. 建設工事費デフレーターの変動

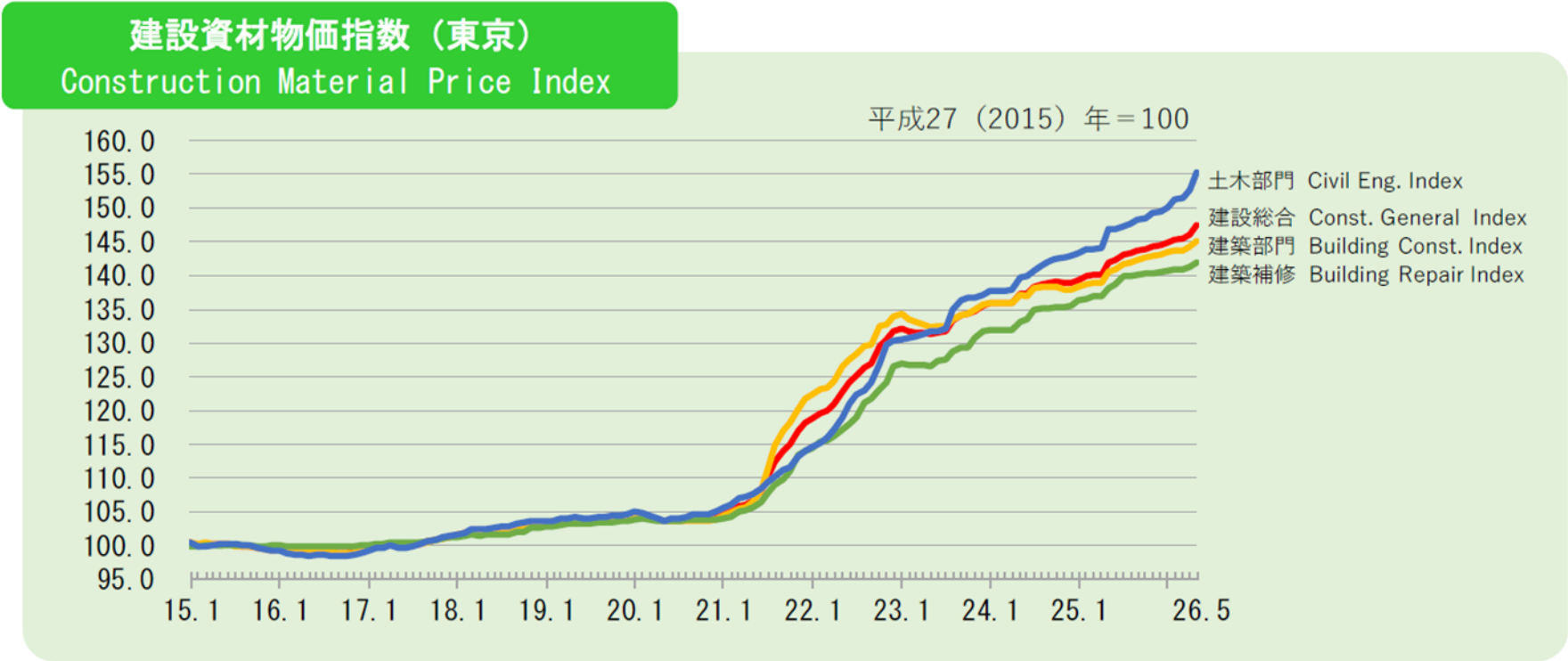
	H27 (基準)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
建設総合_土木総合_その他土木_上・工業用水道	100.0	100.1	102	105.8	108.9	108.9	113.7	122.8	127.2	132	134.5

※出典：国土交通省「建設工事費デフレーター」
※「建設工事費デフレーター」とは、建設工事の価格が、過去と比べてどれくらい高くなったか（あるいは安くなったか）を示す“物価のモノサシ”



資材・労務費といった建設工事費は過去10年間で34.5%上昇、近年の上昇率は大きく、今後も上昇基調で推移するものと見込まれる。

2. 建設資材物価指数(CMPI)の動向



※出典：一般財団法人 建設物価調査会

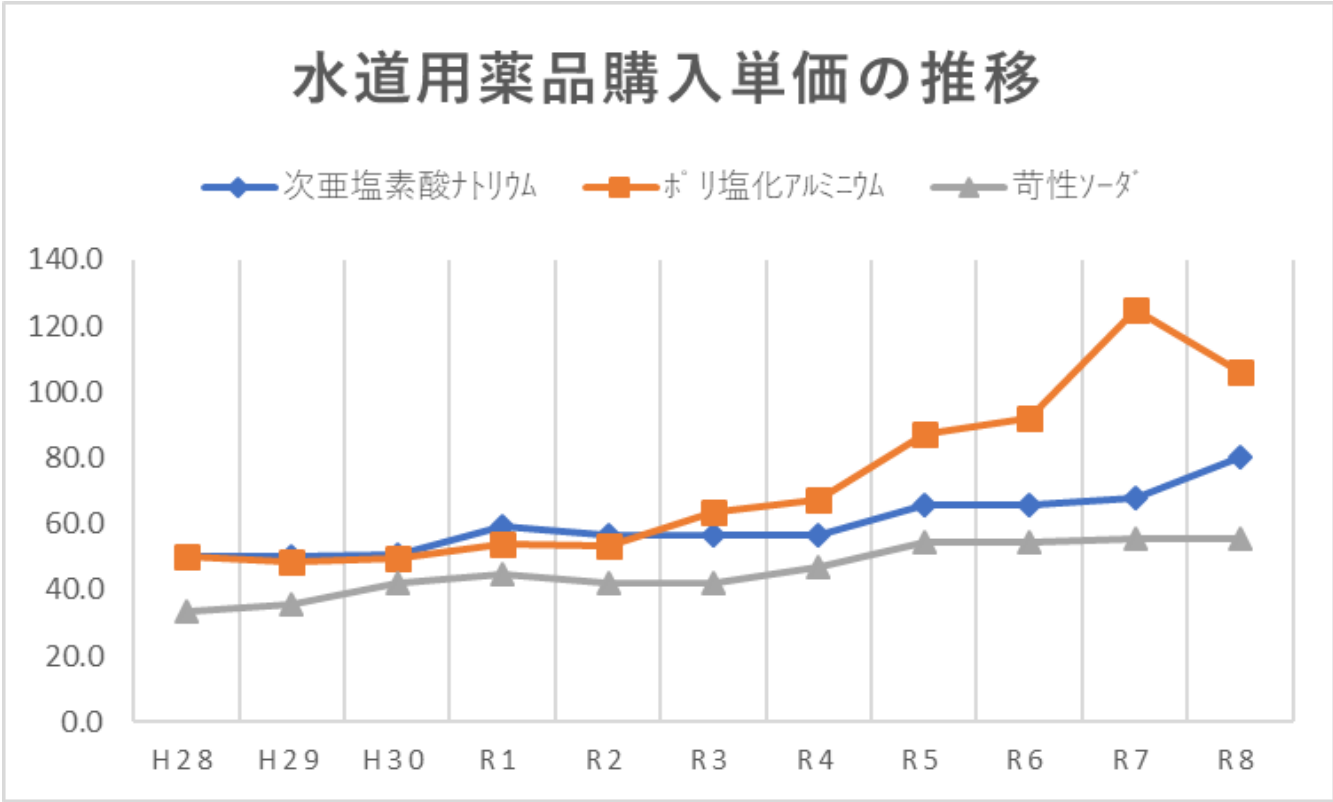
R3を境に上昇率が大きくなり、近年では、水道関連事業が属する土木部門が最も上昇傾向にあり、今後も上昇基調で推移するものと見込まれる。

3. 主な水道用薬品購入単価の動向

(円/kg・税抜き)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
次亜塩素酸ナトリウム	50.0	50.0	50.5	59.5	56.5	56.5	56.5	65.5	65.5	68.0	80.0
ポリ塩化アルミニウム	50.0	48.5	49.5	54.0	53.5	63.3	67.1	87.3	92.3	125.0	106.0
苛性ソーダ	33.2	35.7	42.0	44.5	42.0	42.0	47.0	54.5	54.5	55.5	55.5

※出典：京丹後市水道用薬品購入単価契約内容一覧

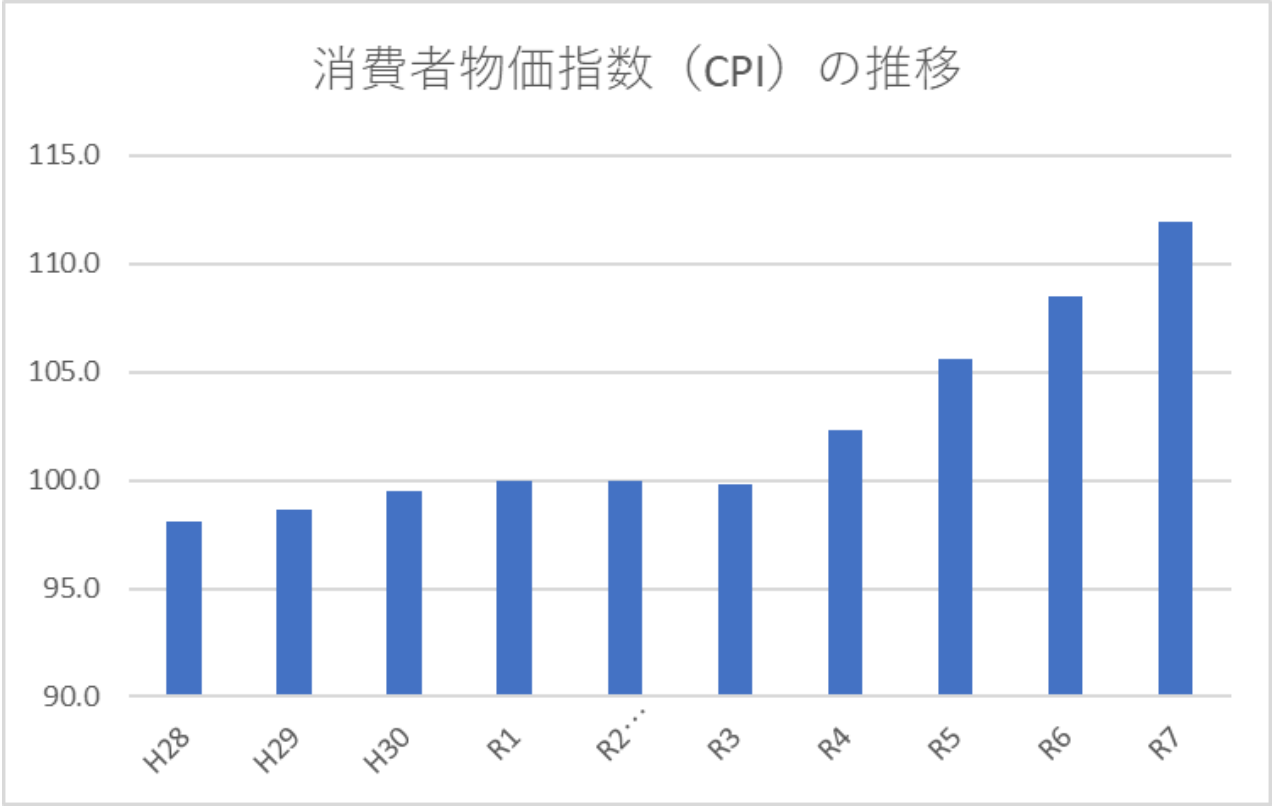


主要な薬品において、過去10年間で1.6～2.1倍に上昇しており、今後も上昇基調で推移するものと見込まれる。

4. 消費者物価指数(CPI)の動向

	H28	H29	H30	R1	R2 (基準)	R3	R4	R5	R6	R7
年平均CPI指数値	98.1	98.6	99.5	100	100	99.8	102.3	105.6	108.5	111.9

※ 出典: 総務省統計局「消費者物価指数 年平均結果」

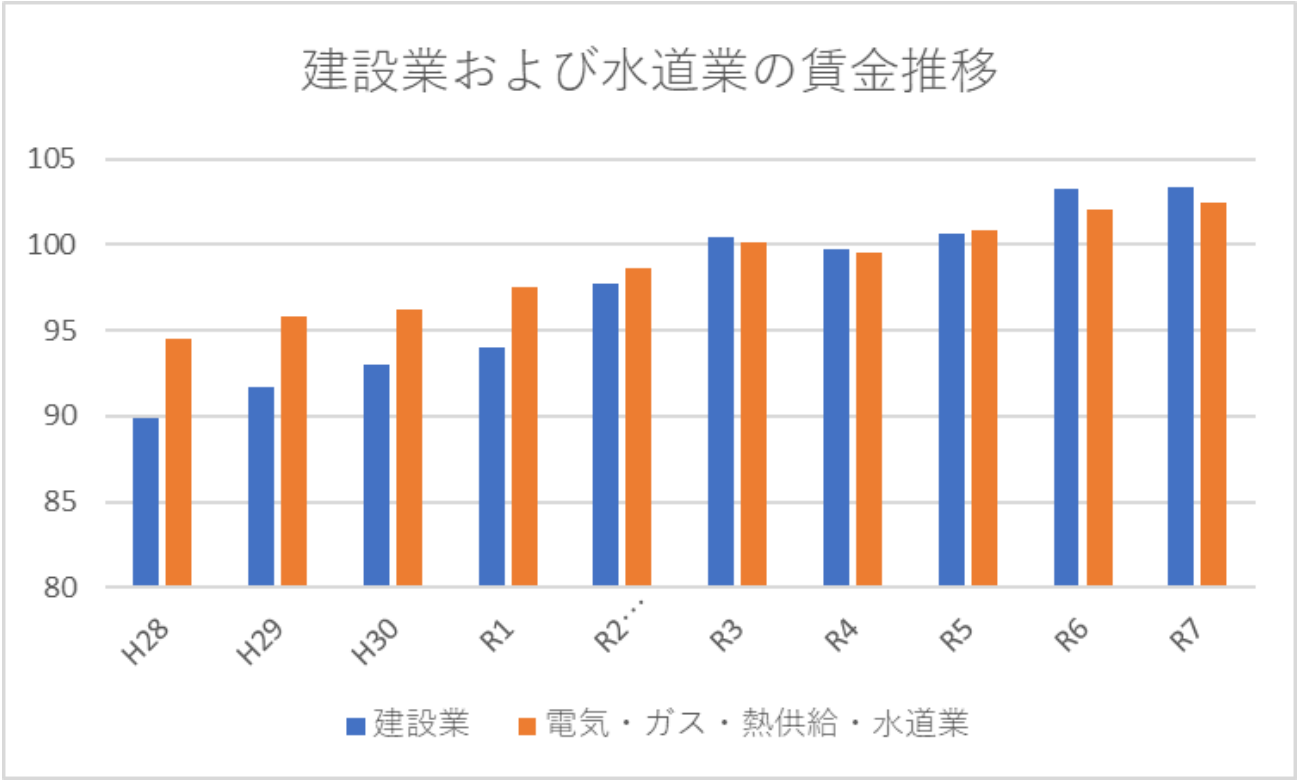


R7時点では過去5年間で約12%の物価上昇となっており、今後も上昇基調で推移するものと見込まれる。

5. 建設業および水道業の賃金の動向

	H28	H29	H30	R1	R2 (基準)	R3	R4	R5	R6	R7
建設業	89.9	91.7	93	94	97.7	100.4	99.7	100.6	103.3	103.4
電気・ガス・熱供給・水道業	94.5	95.8	96.2	97.5	98.6	100.1	99.5	100.8	102.1	102.5

※出典：厚生労働省「毎月勤労統計調査（全国調査）」



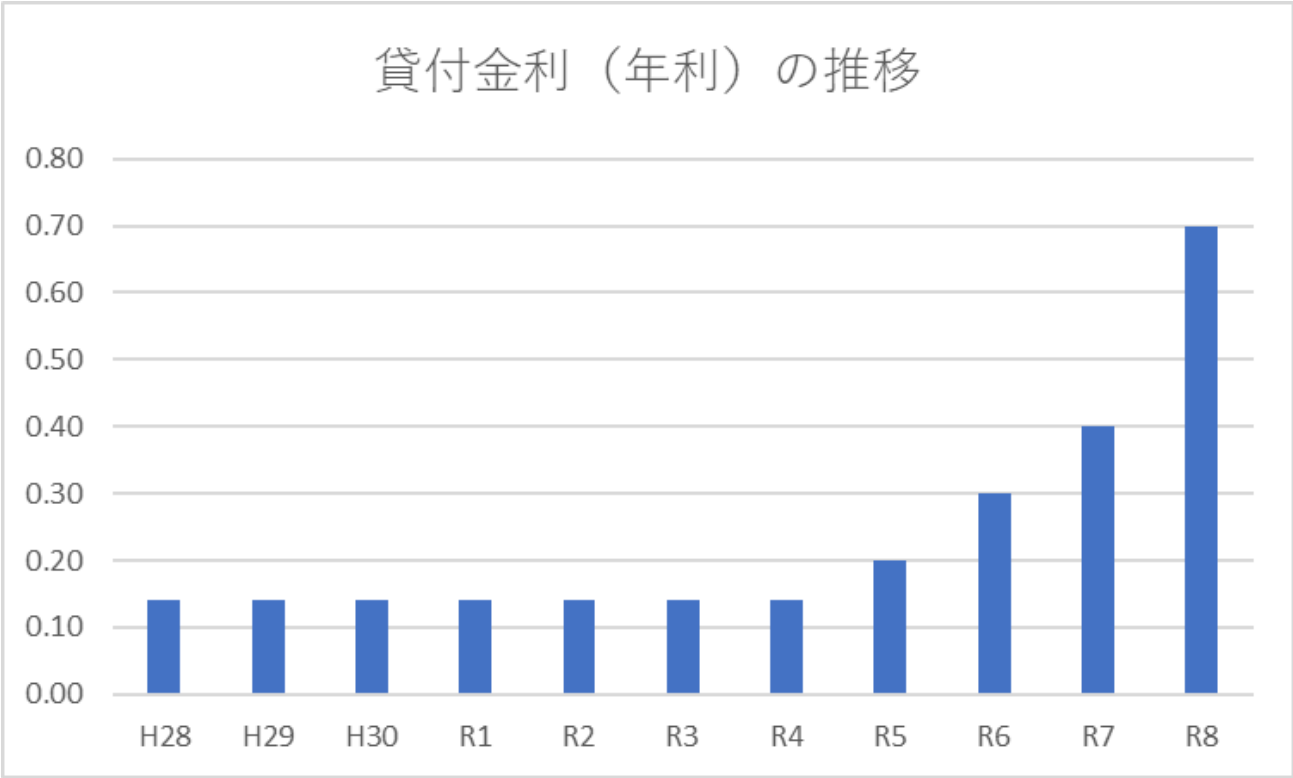
「水道事業の維持管理や管路の更新工事を担う建設業やインフラ関連業界では、人手不足に対応するための賃上げが全国的に進んでいる。過去10年間の賃金指数を見ても、右肩上がりの推移が続いており、工事費や維持管理委託費の上昇に直結している。

6. 金利の動向

【例】財政融資資金（20年償還・据置2年以内）の適用金利

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
貸付金利（年利） 4月時点	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.20	0.30	0.40	0.70

※出典：財務省 財政融資資金の金利情報



近年上昇傾向にあり、今後も高水準での推移が見込まれる。

2.老朽化状況

水道施設の健全度を図3-8に示します。令和4(2022)年度で、水道施設全体の総資産のうち、経年化資産(注1)が約13%、老朽化資産(注1)が約6%あり、合わせて総資産の約20%が法定耐用年数を超過している資産です。健全な水道施設を維持するため、計画的な施設の更新が必要です。

市内全域における法定耐用年数超過管路率のPIを図3-9に、水道施設の建設年次と供用年数を表3-1から表3-4に示します。令和4

(2022)年度の法定耐用年数超過管路率は、20%を超えています。今後、管路の老朽化対策を行う必要がありますが、水道事業が有している資産の約半数が管路であるため、その更新費用は事業経営に大きく影響します。健全な経営の維持のため、計画的な管路の更新を進める必要があります。

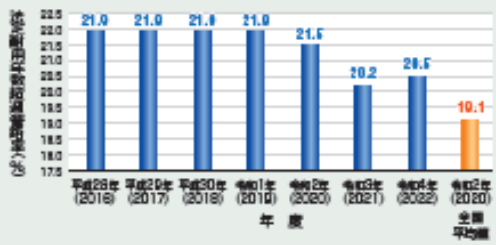
また、水源施設では、老朽化に加え日照り続きなどの気候変動等に応じられる水源の確保も必要となります。

【図3-8】水道施設の健全度(令和4(2022)年度)



	建 物	構築物(管類除く)	管 類	機械及び装置	全 体
老朽化資産	0	0	225,713	2,206,926	2,432,639
経年化資産	13,634	72,382	1,186,901	3,911,471	5,184,388
健全資産	1,398,346	8,393,053	17,888,541	3,679,298	31,359,237

【図3-9】法定耐用年数超過管路率



(注1) 厚生労働省 水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引きによる区分

出典:水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023
令和3(2021)年度水道統計
令和4(2022)年度水道統計

7-2. 水道施設の老朽化状況(京丹後市水道事業ビジョンより)

【峰山・大宮・網野の浄水施設】

【表3-1】令和5(2023)年度までの供用年数(浄水施設)

供用年数30年超過
供用年数40年超過

区域	浄水場名称	建設(改良)年次	供用年数 令和5(2023)年度	施設能力 (m ³ /日)	備 考
峰山	鏡浄水場	昭和45(1970)年	54	1,420	
	中野浄水場	令和 5(2023)年	1	5,437	令和5年度更新完了
	大路浄水場	平成13(2001)年	23	680	
	新岡浄水場	平成19(2007)年	17	243	
	茂地浄水場	昭和47(1972)年	52	12	旧茂地飲料水供給施設
	大成浄水場	昭和49(1974)年	50	6	旧大成簡易給水施設
大宮	口大野浄水場	平成16(2004)年	20	2,298	
	龍王寺浄水場	平成24(2012)年	12	1,299	
	河辺浄水場	昭和31(1956)年	68	540	
	奥大野浄水場	平成15(2003)年	21	480	旧奥大野簡易水道
	三置浄水場	昭和57(1982)年	42	116.5	旧三置簡易水道
	森本浄水場	平成10(1998)年	26	118	旧森本簡易水道
	竹野川浄水場	平成14(2002)年	22	188	旧竹野川簡易水道
	五十河浄水場	平成16(2004)年	20	55	旧五十河簡易水道
	常吉浄水場	平成 8(1996)年	28	229	旧常吉簡易水道
	久住浄水場	平成 8(1997)年	27	71.4	旧久住簡易水道
網野	小沢浄水場	平成22(2010)年	14	3,411	
	新庄浄水場	平成18(2006)年	18	120	
	浅間川浄水場	昭和30(1955)年	69	330	旧浅間川簡易水道
	蔵浄水場	平成13(2001)年	23	42.5	旧蔵簡易水道
	岡田浄水場	昭和46(1971)年	53	86	旧岡田簡易水道
	松ヶ崎浄水場	昭和48(1973)年	51	91	
	飯野浄水場	昭和48(1973)年	51	33	
	深瀬第1浄水場	昭和43(1968)年	56	499	
	深瀬第2浄水場	平成13(2001)年	23	1,187	
	郷浄水場	昭和50(1975)年	49	249	旧郷簡易水道
	生野内浄水場	昭和61(1986)年	38	42.5	旧生野内簡易水道

7-3. 水道施設の老朽化状況(京丹後市水道事業ビジョンより)

【丹後・弥栄・久美浜の浄水施設】

丹 後	荒木野浄水場	平成21(2009)年	15	2,254	
	宇川浄水場	平成18(2006)年	18	968	旧宇川簡易水道
	筆石浄水場	平成20(2008)年	16	228	竹野簡易水道
	豊栄浄水場	平成12(2000)年	24	595	
	八木浄水場	平成15(2003)年	21	101	旧豊栄簡易水道
弥 栄	溝谷浄水場	平成 8(1996)年	28	1,129	
	和田野第1浄水場	平成13(2001)年	23	1,165	旧弥栄中央簡易水道
	和田野第2浄水場	平成 9(1997)年	27	569	
	等楽寺第2浄水場	平成15(2003)年	21	142	
	茅野吉沢浄水場	平成 6(1994)年	30	320	旧茅野吉沢簡易水道
	須川浄水場	平成10(1998)年	26	84	旧野間簡易水道
	小原浄水場	平成 7(1995)年	29	5	旧小原飲料水供給施設
	来見谷浄水場	平成 7(1995)年	29	5	旧来見谷飲料水供給施設
	堀越浄水場	昭和30(1955)年	69	15	旧堀越飲料水供給施設
	吉野浄水場	平成15(2003)年	21	11	旧吉野飲料水供給施設
久 美 浜	中山浄水場	平成 4(1992)年	32	4	旧中山簡易給水施設
	甲山浄水場	昭和48(1973)年	51	750	
	引土浄水場	平成30(2018)年	6	210	旧久美浜西部簡易水道
	神谷浄水場	平成26(2014)年	10	340	
	三谷浄水場	平成28(2016)年	8	140	
	新谷浄水場	平成16(2004)年	20	600	旧海部簡易水道
	川上谷西部浄水場	昭和49(1974)年	50	630	旧川上谷西部簡易水道
	布袋野浄水場	平成 9(1997)年	27	225	旧川上谷南部簡易水道
	女布浄水場	昭和46(1971)年	53	1,190	
	佐野甲浄水場	平成23(2011)年	13	100	旧久美浜東部簡易水道
	尉ヶ畑浄水場	平成 7(1995)年	29	210	
	三原浄水場	昭和47(1972)年	52	40	旧三原簡易水道
	神野浄水場	平成 8(1996)年	28	880	旧久美浜北部簡易水道
	葛野浄水場	平成12(2000)年	24	930	
	旭浄水場	平成 7(1995)年	29	32	旧旭飲料水供給施設

7-4. 水道施設の老朽化状況(京丹後市水道事業ビジョンより)

【峰山・大宮の
配水池・ポンプ場】

【網野・丹後の
配水池・ポンプ場】

【表3-2】令和5(2023)年度までの供用年数(配水池・ポンプ場) 1/3

供用年数60年超過
供用年数40年超過

区分	水 系	施設名称	建設(改良) 年次	供用年数 令和5(2023)年度	容量(m ³)	備 考
峰 山	蟹津水場系	蟹津山配水池	昭和59(1984)年	40	346.6	
		二重山配水池	昭和33(1958)年	66	164.8	
		二重山配水池ポンプ場	平成 2(1980)年	34	0.81m ³ /分×H40m×φ100×7.5kW	
		二重山配水池ポンプ場	昭和52(1987)年	37	0.25m ³ /分×H80m×φ50×7.5kW	
	中野浄水場系	西谷配水池	昭和44(1969)年	55	1,820	
		西谷配水池ポンプ場	平成30(2018)年	6	1,000	
		小瀬配水池	平成13(2001)年	23	83.2	
		横木配水池	平成 7(1985)年	29	0.08m ³ /分×H45m×φ40×3.7kW	
		横木配水池	平成 7(1985)年	29	82.6	
		仲瀬寺配水池	-	-	27	未建設
		仲瀬寺配水池	-	-	27	未建設
	大野浄水場系	大野配水池	平成13(2001)年	23	516.6	
	常町浄水場系	常町配水池	昭和31(1956)年	68	54	
		常町配水池	昭和31(1956)年	68	81	
		常町配水池	平成18(2006)年	18	129.6	
	茂地浄水場系	茂地配水池	昭和47(1972)年	52	不明	旧茂地飲料水供給施設
	大蔵浄水場系	大蔵配水池	昭和48(1974)年	50	不明	旧大蔵簡易給水施設
	配水池数小計			8		未建設を除く
	ポンプ場小計			4		未建設を除く
大 宮	口大野浄水場系	三城配水池	昭和53(1988)年	36	1,000	
		三城配水池	平成 9(1986)年	28	1,000	
		三城配水池ポンプ場	平成 4(1982)年	32	5.5kW	
		マスターレベル調整池	平成 5(1983)年	31	0.40	
		周折配水池	平成 8(1985)年	28	0.14m ³ /分×H80m×φ75×5.5kW	
		周折配水池ポンプ場	平成21(2009)年	15	84	
	御王寺浄水場系	御王寺配水池	昭和57(1982)年	42	115.6	
		大野池配水池	昭和10(1935)年	89	116	
	河辺浄水場系	河辺配水池	昭和57(1982)年	42	255	
		河辺配水池	昭和31(1956)年	68	300.8	
	奥大野浄水場系	奥大野配水池	昭和54(1979)年	45	100	
		奥大野配水池	昭和54(1979)年	45	40	旧奥大野簡易水道
		奥大野配水池	昭和54(1979)年	45	240	
	三瀬浄水場系	三瀬配水池	昭和58(1983)年	41	109.4	旧三瀬簡易水道
	森本浄水場系	森本配水池	昭和58(1983)年	71	42.8	
		森本配水池	昭和10(1935)年	89	55.6	旧森本簡易水道
	竹野川浄水場系	竹野川配水池	昭和45(1970)年	54	82	
		竹野川配水池	昭和55(1980)年	44	27.3	旧竹野川簡易水道
	五十河浄水場系	五十河配水池	平成16(2004)年	20	82.2	旧五十河簡易水道
	常高浄水場系	常高配水池	平成 9(1987)年	27	202.8	旧常高簡易水道
	久住浄水場系	久住配水池	平成10(1988)年	26	96.2	旧久住簡易水道
	配水池数小計			12		
	ポンプ場小計			3		

区分	水 系	施設名称	建設(改良) 年次	供用年数 令和5(2023)年度	容量 (m ³)	備 考	
網 野	小浜配水池	小浜浄水場系	昭和59(1984)年	40	1,361.2		
		島津配水池	昭和36(1961)年	63	933		
	新庄浄水場系	新庄配水池	昭和42(1967)年	57	70.4		
				平成18(2006)年	18	60	
	流茂川浄水場系	流茂川配水池	平成20(2008)年	16	不明	旧流茂川簡易水道	
	鹿浄水場系	第1配水池	昭和36(1961)年	63	27.2	旧鹿簡易水道	
		第2配水池	昭和60(1985)年	39	36		
		第3配水池	平成11(1999)年	25	20		
	岡田浄水場系	岡田配水池	昭和46(1971)年	53	94		
	松ヶ崎浄水場系	松ヶ崎配水池	昭和48(1973)年	51	63		
			昭和48(1973)年	51	70		
	佐野浄水場系	佐野配水池	昭和48(1973)年	51	54.8		
	浜詰第1浄水場系	釜江高区配水池	昭和58(1983)年	41	60	旧瀬尾簡易水道	
			昭和31(1956)年	68	32.6		
昭和31(1956)年			68	50.1			
昭和43(1968)年			56	150			
		昭和46(1971)年	53	96			
浜詰第2浄水場系	浜詰第2配水池	平成 4(1992)年	32	498			
		平成12(2000)年	24	537.5			
丹 後	荒木野浄水場系	高区配水池	昭和36(1961)年	63	350.2		
			昭和43(1968)年	56	298.2		
			平成14(2002)年	22	943		
		砂方加圧ポンプ場	昭和54(1979)年	45	0.37m ³ /分×H64m×φ50×7.5kW		
			砂方配水池	平成19(2007)年	17		
		遊加圧ポンプ場	昭和39(1964)年	60			
			遊配水池	昭和41(1966)年	58		
			昭和41(1966)年	58	100.8		
	宇川浄水場系	掛津配水池	平成24(2012)年	12	144	旧宇川簡易水道	
		宇川配水池	平成19(2007)年	17	364.7		
		谷内加圧ポンプ場	平成20(2008)年	16	0.06m ³ /分×H23m×φ50×1.5kW		
		谷内配水池	平成20(2008)年	16	47.8		
		此代加圧ポンプ場	平成19(2007)年	17	0.06m ³ /分×H84m×φ50×1.5kW		
		此代配水池	平成20(2008)年	16	80		
		中浜加圧ポンプ室	平成21(2009)年	15	0.06m ³ /分×H84m×φ50×1.5kW		
		中浜配水池	昭和57(1982)年	42			
	筆石浄水場系	筆石配水池	平成18(2006)年	18	203.6	旧竹野簡易水道	
		筆原配水池	平成19(2007)年	17	64		
	豊栄浄水場系	豊栄配水池	平成13(2001)年	23	416.4	旧豊栄簡易水道	
		矢畑加圧ポンプ室	平成13(2001)年	23	0.02m ³ /分×H94m×φ50×1.5kW		
矢畑配水池		昭和49(1974)年	50	47.9			
八木浄水場系	八木配水池	平成15(2003)年	21	123.2			
	配水池数小計		13				
	ポンプ場小計		6				

7-5. 水道施設の老朽化状況(京丹後市水道事業ビジョンより)

【弥栄・久美浜の配水池・ポンプ場】

区分	水 系	施設名称	建設(改良)年次	供用年数 令和5(2023)年度	容量(㎡)	備 考
弥 栄	溝谷浄水場系	溝谷配水池	平成 9(1997)年	27	692.3	旧弥栄中央易水道
	和田野第1浄水場系	和田野第1配水池	平成12(2000)年	24	710	
	和田野第2浄水場系	和田野第2配水池	平成 8(1996)年	28	424.5	
	専楽寺第2浄水場系	専楽寺第2配水池	平成12(2000)年	24	156	
	芋野吉沢浄水場系	芋野吉沢配水池	平成 5(1993)年	31	75	旧芋野吉沢難易水道
			平成 5(1993)年	31	196	
	須川浄水場系	須川配水池	平成10(1998)年	26	55.4	旧野間難易水道
		野中配水池	平成10(1998)年	26	62	
	小原浄水場系	小原配水池	平成 7(1995)年	29	36	旧小原飲料水供給施設
	来見谷浄水場系	来見谷配水池	平成 7(1995)年	29	36	旧来見谷飲料水供給施設
	堀越浄水場系	堀越配水池	昭和30(1955)年	69	14.5	旧堀越飲料水供給施設
	吉野浄水場系	吉野配水池	平成15(2003)年	21	41	旧吉野飲料水供給施設
	中山浄水場系	中山配水池	平成 4(1992)年	32	不明	旧中山難易給水施設
	配水池数小計			12		
	ポンプ場小計			0		
久 美 浜	甲山浄水場系	久美浜配水池(主)	昭和47(1972)年	52	636.4	旧久美浜西部難易水道
		河内加圧ポンプ場	平成28(2016)年	8		
		河内配水池	平成28(2016)年	8	32	
	引土浄水場系	引土加圧ポンプ場	昭和33(1958)年	66	0.56㎡/分×H18m×φ80×5.5kW	
		久美浜配水池(副)	昭和33(1958)年	66	34.85	
	神谷浄水場系	神谷配水池	平成24(2012)年	12	15	旧海部難易水道
		河梨配水池	昭和50(1975)年	49	46	
		奥馬地配水池	昭和 5(1930)年	94	35.7	
	三谷浄水場系	三谷配水池	平成28(2016)年	8	60.2	
		甲坂配水池	昭和34(1959)年	65	40	
			昭和53(1978)年	46		
	新谷浄水場系	奥配水池	昭和40(1965)年	59	126.5	旧海部難易水道
		谷配水池	平成15(2003)年	21	353.5	
		谷加圧ポンプ場	平成15(2003)年	21	0.33㎡/分×H60m×φ50×3.7kW	
	川上台西部浄水場系	畑配水池	昭和49(1974)年	50	167.6	旧川上台西部難易水道
			平成 5(1993)年	31	122	
久 美 浜	布袋野浄水場系	布袋野配水池	昭和32(1957)年	67	60	旧川上台南部難易水道
			平成 9(1997)年	27	157.8	
	女布浄水場系	女布第1配水池	昭和47(1972)年	52	326.4	旧久美浜東部難易水道
		女布第2配水池	昭和57(1982)年	42	365.2	
		女布第3配水池	平成13(2001)年	23		
		郷加圧ポンプ場※	昭和58(1983)年	41	0.12㎡/分×H58m×φ65×3.7kW	
		安養寺第1配水池	昭和34(1959)年	65	335.2	
		長野・円頓寺加圧ポンプ場	平成15(2003)年	21	0.58㎡/分×H75m×φ80×15kW	
		長野配水池	昭和47(1972)年	52	75	
		郷配水池	平成27(2015)年	9	182	
	佐野甲浄水場系	佐野乙配水池	平成30(2018)年	6		※郷加圧ポンプ場は佐野乙配水池への送水ポンプ場
		佐野甲配水池	平成24(2012)年	12	126	
	尉ヶ畑浄水場系	尉ヶ畑高区配水池	平成 6(1994)年	30	102	旧三原難易水道
		尉ヶ畑低区配水池	平成 6(1994)年	30	152	
	三原浄水場系	三原配水池	昭和47(1972)年	52	48	旧久美浜北部難易水道
	神野浄水場系	神野配水池	昭和43(1968)年	56	119	
	葛野浄水場系	大向配水池	昭和62(1987)年	37	450	
	旭浄水場系	旭配水池	昭和59(1984)年	40	604.76	
	旭浄水場系	旭配水池	平成 6(1994)年	30	63	旧旭飲料水供給施設
	配水池数小計			26		
	ポンプ場小計			5		

3.耐震化状況

耐震化の状況として、浄水施設の耐震化率、基幹管路の耐震化率、配水池の耐震化率及びポンプ所の耐震化率の状況を表3-3に示します。

水道施設の耐震化率は、全国平均と比べ低い水準となっています。郷村断層帯や山田断層帯による地震で震度7が予想される地域もあり、水道施設の耐震化やバックアップ

施設の整備など、強靱化に向けた取組が必要です。市単独では解決できない問題には、広域的な取組も必要です。

このような整備には費用と時間がかかるとともに、いつ発生するか分からない地震などの自然災害に対して、円滑な対応につながるマニュアル整備などのソフト対策も必要です。

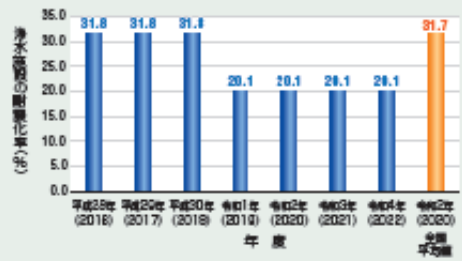
【表3-3】耐震化率の状況

項 目	京丹後市(令和4(2022)年度)	全国平均(令和2(2020)年度)
浄水施設の耐震化率(%)	20.1	31.7
基幹管路の耐震化率(%)	33.3	24.8
配水池の耐震化率(%)	19.1	44.7
ポンプ所の耐震化率(%)	14.3	36.4

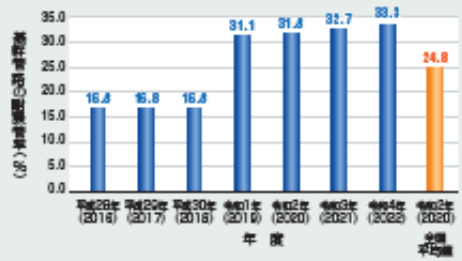
出典:令和4(2022)年度京丹後市水道統計
令和2(2020)年度全国平均は水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023

7-7. 水道施設の耐震化状況(京丹後市水道事業ビジョンより)

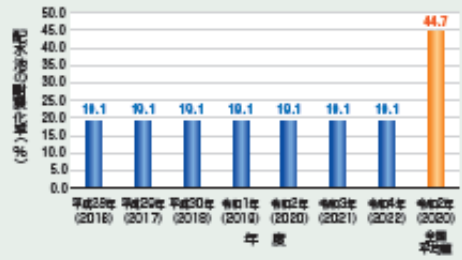
【図3-10】浄水施設の耐震化率



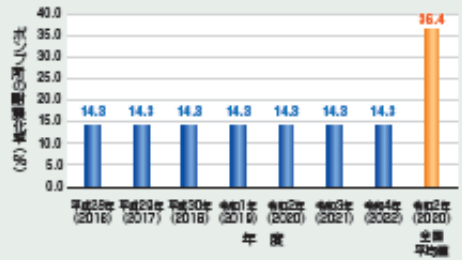
【図3-11】基幹管路の耐震化率



【図3-12】配水池の耐震化率



【図3-13】ポンプ所の耐震化率



課題

持続

- 電力消費量が多いことから、環境負荷低減の取組が必要です。
- 施設の老朽化が進んでいるため、計画的更新を行う必要があります。
- 水源水量の低下に備えた水源の確保が必要となります。

強靱

- 水道施設の強靱化のため、耐震化を進めていく必要があります。
- 水道施設の強靱化に向けたバックアップ施設を整備する必要があります。
- 広域的な連携を実施する必要があります。
- ソフト対策によるリスク低減を図る必要があります。